

2024年新刊
3月初旬発売

書店・番線印

ご担当者

冊

ISBN978-4-7896-0839-8 C0016
病と老いと死、
とその後の「いのち」
森一弘著
女子パウロ会 発行

本体1,400円+税



著 森 一弘

1938年横浜市に生まれる。
1967年司祭叙階。1985年司教叙階。2000年まで東京大司教区補佐司教を務める。2023年死去。
著書に『人生を支え、老いを照らす光』『あなたにとって神とは？』『世界と日本と民主主義のありようを考える』『人はみな、オンリーワン』（女子パウロ会）、『教皇フランシスコ教会の変革と現代世界への挑戦―』（サンパウロ）、『「今を生きる」そのために』（扶桑社）他がある。

定価1,540円(本体1,400円+税)
B6判 196頁 並製 C0016
ISBN978-4-7896-0839-8
NDC194

発行：女子パウロ会 東京都港区赤坂8-12-42 TEL 03-3479-3943 FAX 03-3479-3944

病と老いと死、とその後の「いのち」

東京の新宿区にある、カトリック系の真生会館で行われた6つの講話シリーズを単行本化。

各シリーズのテーマは、「いのち」、「死を想う」、「大きな力に操られず、流されずに、自分らしく生きるために」、「わたしたちの生の営みから喜びや希望を奪い取ってしまう闇」、「キリスト教が理解する終末」(伝統的な教義の終末論と別視点で)、そして最後のテーマは「聖霊」。

「いのち」を危機にさらす、現代のさまざまな問題・深い闇を、ときに具体例も挙げて鋭く指摘。オンリーワンとしての一人ひとりが、存在レベルで望む、究極で共通のことも述べる。また、その願望が満たされないことが、諸問題・闇と深い関係にあることも説く。

危険にさらされている「いのち」についての考察

- 1 「命」と「いのち」の違い
- 2 「いのち」には設計者がいる
- 3 生きているものは、すべてオンリーワン
- 4 オンリーワンとしての「いのち」を脅かすもの

死のかなたに何があるのか、虚無か、いのちの輝きか

- 1 社会の営みから神が消えてしまった？
- 2 死を自分の人生に取り込んでしまう人々
- 3 なぜ、死を選び、決断するのか

大きな力に操られず、流されずに、自分らしく生きるために

- 1 「流される」のメカニズム
- 2 「操られる」のメカニズム
- 3 操られてしまう(しまった)人
- 4 キリストの生き様

キリストの十字架を見つめて 闇の中に光を見いだしていくために ―闇は、人生の一部、旅の道連れ

- 1 闇の冷酷さ、残酷さ
- 2 人間としての根底を揺さぶる闇
- 3 人間の幸せへの歩みを妨げ、深い闇を与えるものは……

病と老いと死、とその後の「いのち」―キリスト教が理解する終末

- 1 死についての考察
- ―カトリック教会の伝統の中での終末の受け取り方

聖霊について

- 1 「霊」について理解することの難しさ
- 2 聖書の世界の「ルーアッハ」の意味とその宗教的発展